



Since 1941  
アサヒの森

## Data Book

私たちアサヒグループは、  
水や農作物など「自然の恵み」を享受して事業活動を行い、  
最高の品質を追求し期待を超えるおいしさを創造し続けるために、  
「自然の恵み」を育む地球環境を次世代に引き継ぐ責任があります。  
そして、「自然と人と健康がめぐり続ける豊かな未来」に貢献したいと考えています。

その実現にむけたアサヒグループの代表的な取組みの一つが「アサヒの森」です。  
アサヒグループは、1941年から、豊かな森づくりを目指して、社員の手で森を守り続けています。

アサヒグループが受け取った森の恵みをしっかりと守ることでいつまでも自然がめぐり続ける。  
様々な人とともに、森の恵みを活かしていくことで人がめぐり続ける。  
自然や人がめぐり続けるアサヒの森は、  
私たちの豊かな未来に繋がると信じています。

Asahi

発行元  
アサヒグループジャパン株式会社

コーポレートコミュニケーション戦略部  
東京都吾妻橋1-23-1

公式サイト [https://www.asahigroup-holdings.com/csr/asahi\\_forest/](https://www.asahigroup-holdings.com/csr/asahi_forest/)

アサヒの森環境保全事務所  
広島県庄原市中本町1丁目8-2

© ASAHI GROUP HOLDINGS, LTD.

本文・写真などの無断転載・複製を禁じます



私たちアサヒグループが目指すのは、  
人と健康と自然が循環し、イキイキと豊かであり続ける、生命力あふれる未来です。

私たちは、人の「めぐる」を創り出します。  
すべての人が生きる喜びとめぐり逢え、すべての地域が活気づく多様性社会を実現するために。

健康の「めぐる」を創り出します。  
一人ひとりがおいしさを楽しみ、カラダとココロに元気がめぐる毎日を実現するために。

自然の「めぐる」を創り出します。  
豊かないのちがめぐる、サステナブルな地球環境を実現するために。

様々な商品・サービス・取り組み、何よりもその根底にあるアサヒグループ一人ひとりの  
情熱を原動力に、使命と責任を果たしていきます。

そしていつまでも、おいしさが人と人のあいだをめぐり続けることを約束します。

## 目次 contents

- 3 Page アサヒの森の概要
- 4 Page アサヒの森のあゆみ
- 5 Page アサヒグループ環境基本方針  
持続可能な水資源への貢献
- 6 Page アサヒグループ環境ビジョン2050  
アサヒの森の「自然資本としての価値」の定量化
- 7 Page アサヒグループ生物多様性宣言～自然の恵みを守ろう～  
アサヒの森 生物多様性の保全基本方針
- 8 Page 意見交換会『アサヒの森の恵みを未来へ』

## アサヒの森の概要

### ● 森の所在地と面積

広島県（庄原市、三次市の15の山に点在）

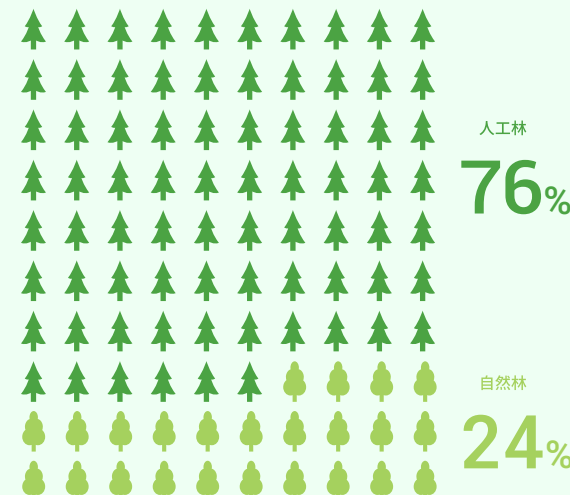
所有面積：2,165ha、管理面積<sup>※1※2</sup>：2,467ha

※1「戸ノ丸国有林における分収造林契約」および「庄原市比和財産区有林における森林保全管理協定」の対象森林を含む

### 山林別情報（2022年1月現在）

山林名	所在地	面積(ha)	人工林面積(ha)	人工林率
下赤松山	三次市作木町	69	31	45%
灰谷山	三次市布野町	80	60	75%
曲谷山	三次市君田町	157	134	85%
黒口山	三次市君田町	56	50	89%
女亀山	三次市布野町	115	71	62%
赤松山	三次市布野町	213	174	82%
二分坂山	三次市君田町	144	73	51%
<b>三次市 計</b>		<b>834</b>	<b>593</b>	<b>71%</b>
戸谷山	庄原市濁川町	337	271	80%
甲野村山	庄原市比和町	408	317	78%
須川山	庄原市川北町	151	137	91%
鳥袋山	庄原市口和町	124	111	90%
殿畑山	庄原市口和町	20	14	70%
比和奥山	庄原市比和町	46	38	83%
俵原山	庄原市高野町	181	101	56%
法仏山	庄原市比和町	64	59	92%
<b>庄原市 計</b>		<b>1331</b>	<b>1048</b>	<b>79%</b>
<b>合計</b>		<b>2165</b>	<b>1641</b>	<b>76%</b>

※2 管理対象林：大谷山（庄原市比和財産区有林）約294ha、戸ノ丸国有林約7ha



### ● 森林経営に関する認定・認証

FSC (Forest Stewardship Council\* 森林管理協議会) FM認証

2001 (平成13) 年取得 ※日本で3番目の取得

CoC認証取得 2005 (平成17) 年取得

環境省 オフセット・クレジット制度J-VER

(Japan Verified Emission Reduction) 2011 (平成23) 年取得

広島県「意欲ある林業経営者」

2019 (平成31) 年登録

文化庁「ふるさと文化財の森」

2021 (令和3) 年登録 ※食品メーカーで初



### ● 森林の指定区域

水源涵養保安林

対象：全山

指定団体：広島県

指定時期：1966 (昭和41) 年~1955 (平成7) 年にかけて全山で指定

ブナ林自然環境保全地域

対象：女亀山の一部

指定団体：広島県

指定時期：1987年 (昭和62) 年3月31日

神之瀬峡県立自然公園

対象：二分坂山・曲谷山・黒口山の一部

指定団体：広島県

指定時期：1998年 (平成10) 年4月30日

### ● 省庁・行政との提携等

林野庁近畿中国森林管理局「美しい森林づくりに関する覚書」 2008 (平成20) 年締結

広島県庄原市比和財産区との財産区有林管理にかかる

契約 2020 (令和2) 年締結

戸ノ丸国有林における分収造林植林

2020 (令和2) 年締結

第53回全国林業経営遂行行事・林野庁長官賞

2014 (平成26) 年受賞

第5回いきものにぎわい企業活動コンテスト

農林水産大臣賞 2016 (平成28) 年受賞

## アサヒの森のあゆみ

### 2021年

戸ノ丸国有林における分収造林契約の締結

※持続可能な水資源への貢献のため

「文化庁ふるさと文化財の森」登録

### 2019年

広島県の「意欲と能力のある林業経営者」として登録

### 2014年

アサヒの森 生物多様性の保全基本方針策定  
第53回全国林業経営推奨行事において林野庁長官賞受賞

### 2010年

生物多様性モニタリング調査を  
2010~2012年で実施

### 2007年

庄原林業所から  
「アサヒの森環境保全事務所」に変更

### 2001年

「FSC®FM」認証取得<sup>※3</sup>

<sup>※3</sup> FSC® (Forest Stewardship Council®：森林管理協議会)が、環境・社会・経済的側面から適切に管理されている森林を認証する国際的な規格です。認証林から産出される木材・木製品に独自のマークを付け、幅広く消費者へ流通させようとするもの

### 1993年

戸谷山で会長記念植樹  
[1995年より社長記念植樹開始]

### 1970年

ヒノキ幼苗・ヒノキポット  
苗木育苗開始

### 1949年

朝日麦酒 (株) 庄原林業所開設

### 2020年

庄原市比和財産区との  
財産区有林管理に係る契約の締結

### 2016年

第5回いきものにぎわい企業活動コンテストに  
おいて農林水産大臣賞受賞

### 2011年

オフセット<sup>※1</sup>クレジット (J-VER) を取得  
(間伐促進型プロジェクト)

<sup>※1</sup> オフセット・クレジット (J-VER)：環境省によるオフセット・クレジット制度 (J-VER 制度) に基づいて発行される排出権 (クレジット)

### 2008年

林野庁近畿中国森林管理局と  
「美しい森林づくりに関する覚書」を締結

### 2005年

「FSC®FM/CoC<sup>※2</sup>」認証取得

<sup>※2</sup> CoCとはChain of Custody=管理の連鎖を意味し、FSC認証森林の木製品が、製造、加工、流通の全課程において、未認証森林のものと混入しないよう管理されていることを認証するもの

### 1998年

神之瀬峡県立自然公園に指定  
(二分坂山・曲谷山・黒口山の一部)

### 1987年

ブナ林自然環境保全地域指定 (女亀山の一部)

### 1960年

ヒノキ、スギの植林を本格的に開始

### 1941年

アベマキが自生する広島県の山林を購入

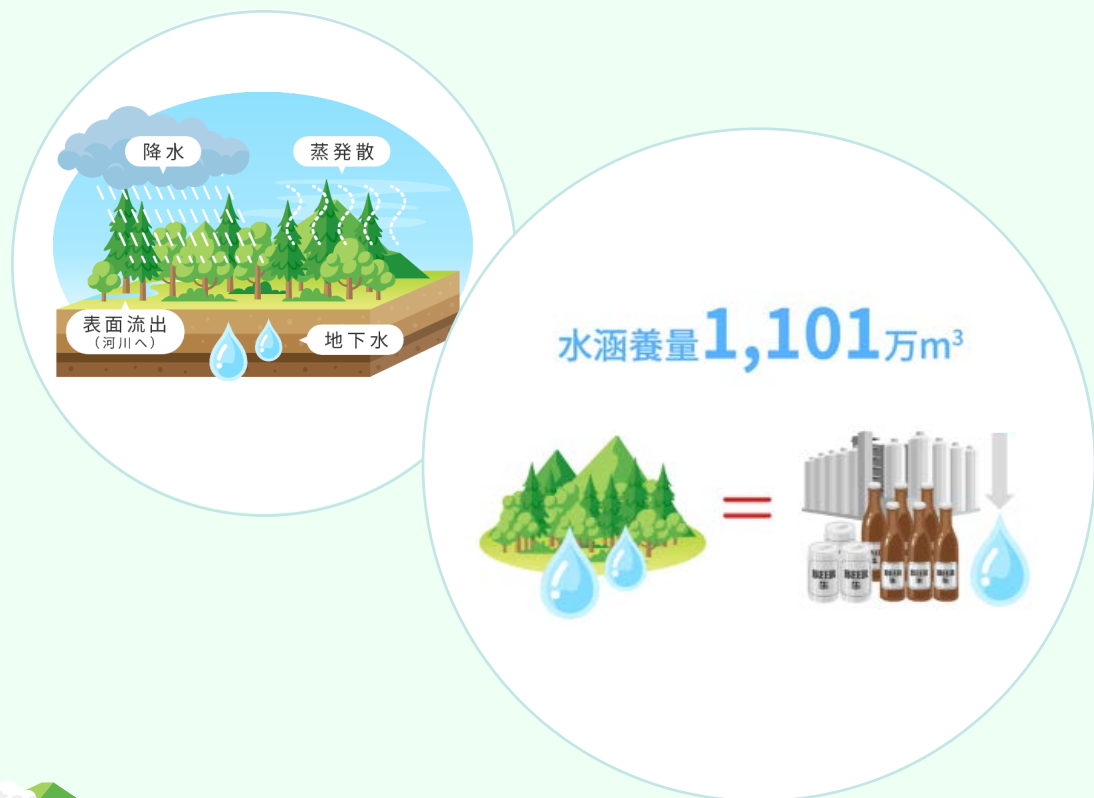
## アサヒグループ環境基本方針（2019年1月制定）

私たちアサヒグループは、水や農作物など「自然の恵み」を享受して事業活動を行っています。最高の品質を追求し、期待を超えるおいしさを創造し続けるために、「自然の恵み」を育む地球環境を次世代に引き継ぐ責任があります。目指していくのは、環境負荷を低減させるだけでなく、革新的な取り組みによって、環境へプラスとなるような循環を生み出すこと。事業成長とともに持続可能な社会の実現に挑戦し続けます。

1. 私たちは、各国および各地域の環境法規制を遵守します。
2. 私たちは、環境負荷低減に向けてマネジメントシステムを構築するなど、継続的な改善に取り組みます。
3. 私たちは、エネルギーや水、原材料などの事業活動に必要な資源の使用効率の改善を図り、温室効果ガスや廃棄物の抑制、汚染防止や環境保護に努めます。
4. 私たちは、バリューチェーン全体の環境負荷低減に向けて働きかけます。
5. 私たちは、適切な情報開示により、透明性や信頼性を高め、ステークホルダーとの積極的なコミュニケーションを図ります。

## 持続可能な水資源への貢献

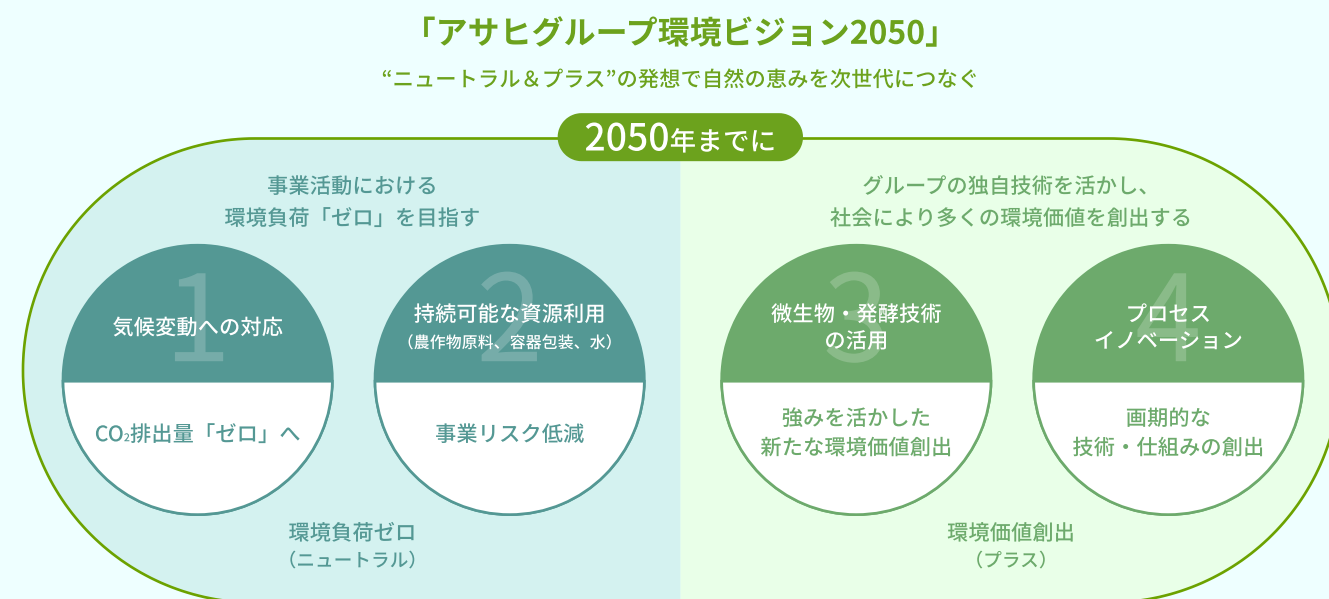
アサヒグループでは、森の多面的機能を考慮し、「アサヒの森」の地下水になる水の量（=水涵養量）を、「地下水として安定的に供給され、地域の人や動植物が活用できる水の量」として新たに定義し、専門家のご意見も踏まえた上で、定義に基づく水涵養量を検証しました。その後管理面積を拡大させ、2021年からの「アサヒの森」の水涵養量は、「1,101万m<sup>3</sup>」となっています。2021年の国内ビール工場の水使用量は「約963万m<sup>3</sup>/年」となり、現在100%以上の水使用量相当を「アサヒの森」で地球に還元できることになりました。この結果に満足することなく、今後さらに工場での水使用の効率化を推進するとともに、「アサヒの森」の水涵養を継続することで持続可能な水資源の確保に取り組みます。



## アサヒグループ環境ビジョン2050（2019年2月制定）

アサヒグループは、2050年までに、事業活動における環境負荷ゼロ（ニュートラル）を目指します。それとともに、アサヒグループの独自技術を活かし、社会により多くの環境価値創出（プラス）を目指すことで、事業成長とともに持続可能な社会の実現に挑戦します。

### ● アサヒグループ環境ビジョン2050全体像

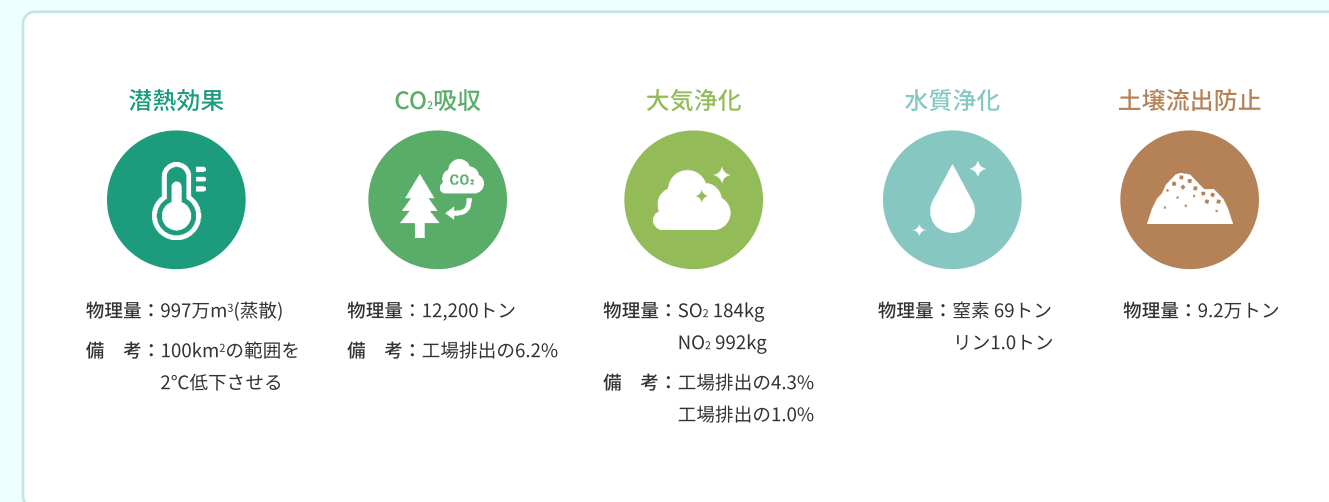


## アサヒの森の「自然資本としての価値」の定量化

### ● 自然資本としての価値の定量化の例（外部の専門家による評価）

原則として、生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書<sup>※</sup>に準拠して評価しています。

※『生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書』（環境省、2016）



## アサヒグループ 生物多様性宣言～自然の恵みを守ろう～（2010年3月制定）

地球上のさまざまな生きものは、それぞれが役割をにない、バランスを保ちつつ、相互につながって生きています。

きれいな空気や水、おいしい食べ物や飲み物、私たちが日々生きていくために必要なすべてのものは、さまざまな生きものたちが与えてくれる自然の恵みです。

水や穀物など、自然の恵みを用いて事業活動を行う私たちアサヒグループは、生物多様性を尊重し、より豊かな自然の恵みを守り、育み、次の世代へ伝えていきます。

## アサヒの森 生物多様性の保全基本方針（2014年1月制定）

アサヒの森は、アサヒグループの生物多様性宣言の実行にむけて基本方針を制定しました。

### ●方針1.守る「アサヒの森」の生物多様性を保全します

1. 針葉樹林を利用しながら守ります  
適切な森林施業を継続的に行っていくことで、生物多様性の豊かさを未来へつなぎます。
2. 広葉樹林を守ります  
アサヒの森の25%を占めている広葉樹林にたくさんの生きものが暮らしています。その豊かさを、知恵を出し合いながら守っていきます。
3. それぞれの山の個性を守ります  
15の山々の生態系や地域の特色を参考にして、個性のある保全の方法を考え、場所ごとに管理計画を作っていきます。
4. 貴重な生きものを守ります  
アサヒの森に棲んでいる貴重な生きものたちが、安心して暮らせる環境を作っていきます。

### ●方針2.活かす「アサヒの森」の恵みを活かし、利用します

1. 自然の恵み（生態系サービス）を把握します  
生物多様性の価値に加え、木材生産、水質浄化、温暖化ガス固定、環境活動の場の提供など、いろいろな価値を把握していきます。
2. 把握した自然の恵みを活かし、利用します  
自然の恵みを活かしていくために、グリーンツーリズム、間伐材利用促進など新しい活用方法を検討し、実践していきます。
3. ステークホルダーと自然の恵みを共有します  
環境教育の場として「アサヒの森」が生み出す自然の恵みを、あらゆるステークホルダーと共有できる取組みを進めます。

### ●方針3.協働する「アサヒの森」で一緒に活動します

1. 情報を発信します  
「アサヒの森」の魅力やアサヒグループらしい保全の取組みを理解してもらうため、ホームページやパンフレットなどを活用して情報発信を続けます。
2. 仲間を増やします  
「アサヒの森」のファンや活動に賛同し一緒に取組んでくれる人々、活動の場を増やしていきます。
3. 交流の場を作ります  
地域の人々や有識者、アサヒグループの社員が交流し、意見交換する場を設け、「アサヒの森」の守り方や活かし方に反映させていきます。

## 意見交換会『アサヒの森の恵みを未来へ』

アサヒの森では生物多様性の保全に向けた意見交換会を開催しています。



### ●アサヒの森を守り活用するPDCA

アサヒの森では、2014年から「アサヒの森 生物多様性の保全基本方針の具体化のためのアクションプラン」を策定して実行しています。その成果を振り返りながらPDCAサイクルを回して豊かな森づくりにむけた挑戦につなげています。



### ●生物多様性保全に関する意見交換会

アクションプランの一環として大学、行政、NPO、企業等の有識者の方々と共に協業の可能性や森林の活用方法について意見交換会を定期的実施しています。

### ●意見交換会『アサヒの森の恵みを未来へ』開催実績

年	テーマ	場所
2021年11月26日	アサヒの森の80年とこれから	森林の学舎・比和 (広島県庄原市)
2019年10月25日	アサヒグループ環境ビジョン2050／持続可能な水資源への貢献に向けた取組み	アサヒの森 甲野村山 (広島県庄原市)
2018年11月13日	森林の自然資本としての価値の定量化・活用に関する意見交換会 ～地球温暖化へ対応するための社有林の評価と活用～	アサヒグループ本社 (東京都)
2017年10月20日	協働による課題解決のためにできること	アサヒの森 甲野村山 (広島県庄原市)
2016年10月12日	森林資源の利活用、地域との協働	アサヒの森 甲野村山 (広島県庄原市)
2015年7月16日	生態系サービスの定量化の試み	アサヒの森 甲野村山 (広島県庄原市)
2014年7月4日	アサヒの森 生物多様性の保全基本方針策定	アサヒの森 甲野村山 (広島県庄原市)